

平成二十二年 称号・段位合格者

次の方々が合格されました。おめでとございませう。今後益々のご精進とご活躍を期待致します。

(人吉カルチャーパレス・八月二十二日) 濱崎 敏文(26) 田中 尚吾(31)

剣道教士

(京都・五月六日) 濱崎 武志(50)

剣道七段

(愛知・五月十五日) 平田 光二(52)

剣道錬士

(京都・五月六日) 寺田 到(58) (東京・十一月二十四日) 本多 徹也(53)

剣道五段

(南部総合スポーツセンター・八月一日) 中田 静志(31)

七段審査体験記

有明町 平田 光二



平成二十二年五月十五日、名古屋で行われた七段審査において、ようやく念願の合格を果たすことができました。これもひとえに今までご指導

日後に転勤の話があり、その後職場の環境が大きく変わり、それにより自分でも満足ゆく稽古ができたことがよかったです。のではないかと思います。

私がなぜ剣道の昇段を志したかを考えてみますと、少年剣道の指導に携わるようになったことがきっかけとなったような気がします。私は昭和五十六年に地元金の機関(天草信用金庫)に就職しました。昭和五十七年から今津少年剣道クラブで二年間、昭和六十年より現在の下津浦少年剣道クラブで小学生を中心指導してきています。子ども達に剣道を教えている間に、指導の難しさや楽しさ、剣道の奥深さを知り、徐々に剣道にのめり込んでいきました。そんなあるとき、指導している子ども一人から「先生は何段呢?」と突然聞かれたことがありました。当時は二段であり、そのころまではあまり段位について意識していませんでしたが、折角なら子ども達と一緒に昇段を目指しながら頑張ってみようと思つたことが昇段審査を受けるようになったきっかけだったと思ひます。

振武館では県内の七段、八段を目指している多くの先生方が出稽古に来られ、指導には尾方先生や田邊先生をはじめとする八段の先生方が常時三、五名お見えになり、かなり充実した稽古ができたと思ひます。

「剣道あまくさ」の編集長をして一年を通じて常に記事のことが頭から離れない。そこで何かないかと剣道に関する書物を探し、可能な限り購入して熟読するようにしている。読めばこれは必ず面白い、自分の稽古にも大いに役立つという(と思う)。ところで、剣道の目的については実に様々に述べられている。曰く、試合に勝つため、昇段審査のため、健康のため、気分転換のため、仲間との親睦のため、人間形成のため、等々。それぞれ立派な目的であり、生涯かけて追求すべき価値がある。しかし私が最も素直らしいと思うのは「剣道の目的は稽古そのもの」という考えだ。解釈は色々あろうが、剣禅一如に生きた故小川忠太郎範士九段説くところの「三昧(なりきること)」、「正念相続(正しい

いこころで続けること)」を連想させられる。また「一期一会」の精神の継続とも言えよう。我々凡人はそこまで突き詰めて考えずとも、一回一回の稽古を大事にする、楽しむ、その積み重ねこそが自分の剣道人生であり、幸せそのものなのだ、その他の事柄は結果的に付いてくるものだ、と考えてはどうだろう。ところで、前事務局長の木下文男先生が天草の剣道隆盛のため、もう数十年前に提唱して始められた各地区持ち回りの合同稽古会も最近参加者が固定化し、いささか寂しい観がある。まず地元稽古会を大事にすることでは当然として、合同稽古会では担当町の、せめて両隣の町会員はこそぞ参加したい。三角の八十六歳範士八段西山弘先生の「ぼかかんもんはどげんしたつか!」の大音声がまた耳に痛い。さあ、まずは道場へ行こう。 M.K.



昭先生、木下文男先生をはじめ、多くの皆様方にお礼と感謝を申し上げます。